

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する緊急再申し入れ

第2回交渉を行う!

2022年3月30日、中央本部は申26号第2回交渉を行いました。本部交渉団は、3月17日の会社回答以降に寄せられた6,447件にも上る「会社回答には納得できない」等の声を会社に伝え、会社は「受け止める」と回答しました。

第2回交渉の主な争点

①「労働条件の最たるものは賃金である」という労使認識について

◆労働条件の最たるものは賃金である。組合員・社員の生活、モチベーションに大きく関わる要素である。会社の認識を伺いたい。

●賃金は労働条件の最たるものである。それを前提に生活への影響を考えれば、社員の生活において賃金は重要なものだということは、我々も認識している。●一方、社員のモチベーションについて、賃金が影響することは認識する。働きがいなど様々なモチベーションがある中で、賃金が「全て」とか「最も重要」かと云えば様々な見方がある。

②「55歳以上の労働条件の改善は課題である」という労使認識について

◆55歳以上の賃金を含めた労働条件の改善に至っていない。これは課題であると我々は認識している。

●提起は受け止める。
●一方、会社制度として55歳以上は定期昇給の制度が設けられていない。それ以上の判断は特に考えていない。
→だからこそ「ベア」が必要だと訴えるも認識は一致せず

③「年収や生涯賃金が減額されている」という労使認識について

◆年収減や生涯賃金が減額された状況は良しとしていない認識を一致してきた。昨年の定期昇給カット分を支給すべきという主張に対する認識はどうか。

●指摘や提起は受け止める。業績状況を踏まれば賃金へ影響が出ている現状は良しとしていない。●サステナブルな会社の成長を実現し、社員に還元していく。このサイクルを回していくことが大事だ。施策等の実現を通じて明るい見通しをつくることが重要だ。●新賃金、期末手当は、都度申し入れを受けて議論して決定している。提起があれば、議論することはやぶさかではない。

④「震災復旧に対する努力が反映されていない」という労使認識について

◆福島県沖地震の復旧、全組合員・社員の奮闘について、今交渉でも現実の声を議論してきた。しかし、今新賃金の回答に含まれていない。震災復旧を完遂した際には期末手当等で、全ての組合員・社員の努力に報いるべきである。

●発生直後から社員の皆さんが復旧に尽力していることに感謝を申し述べたい。
●会社として現時点では、まず復旧に最優先を尽くす。貴側から具体的な提起があれば議論したい。

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、
2022年度賃金引き上げに関する緊急再申し入れ

非情に悔しく、結果は厳しいが、22春闘について
妥結の判断をする

定期昇給（昇給係数4）の実施、ベアゼロ

昨年の定期昇給のカット別途支給、第二基本給制度の凍結、65歳定年制導入 → **要求実現せず**

本日、中央本部は全地本代表者会議を行い、議論を経て22春闘の妥結を行う判断をしました。

21春闘で行われた**定期昇給カット**から1年間、組合員と共に会社姿勢に立ち向かいながら、**社内世論をつくりかえて社友会が定期昇給4を主張せざるを得ない状況をつくり**、定昇実施させたことは、たたかいの到達点として確認できます。しかしながら、ベアがなければ私たちの労働実感・生活実感は変わらず、要求を実現させていくためには、今の会社姿勢を変えて行く必要があります、そのためには更なる組織強化・拡大の実践が必要です。

怒り・悔しさを共有すると共に、22春闘によって

実現した組織強化を全組合員で確認しよう！

職場から交渉を支えていただきありがとうございました！

J R 東 労 組 盛 岡

No, 117
2022年3月31日
東日本旅客鉄道
労働組合
盛岡地方本部

〒020-0045
盛岡市盛岡駅西通二丁目16番31号
発行人 佐々木克之
編集人 情宣部
NTT 019-623-1011 FAX 019-624-0157
JR 033-2238・2239 FAX 033-2230

中 央 本 部 が 見 解 発 出 ！

「21春闘敗北を教訓に22春闘を全組合員と共にたたかい抜き

「JR東労組の組織強化を実現した」中央本部見解

「2022 JR総連春闘」としてたたかいをつくり出してきたJR東労組は、交渉団と職場が一体となった取り組みはもちろんのこと、統一要求・統一闘争にこだわり、ベア要求実現と定期昇給（昇給係数4）の完全実施を求め、加盟単組ならびにバス関東本部・バス東北本部・ジェイアールステーションサービス協議会の仲間の皆さんとスクラムを組み、今日までたたかいをつくり出してきた。これまで中央本部と共にたたかった全組合員の皆さんと、支えてくださったご家族の皆さんに感謝申し上げます。

3月17日に開催された第3回団体交渉において、定期昇給の完全実施という結果は確認できたものの、「ベアゼロ」という回答は、組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みないものであることから、「申26号『緊急再申し入れ』」をおこない、22春闘における集大成として団体交渉に臨んだ。会社回答に納得できないという組合員の声を会社に伝え、会社は受け止めると回答し、今後の課題についても一定の労使共通認識を見出すことができたものの、要求は実現に至らなかった。

本日、全地本代表者会議を開催し、他労組が早々に妥結する中でJR東労組は、組合員の声をもとに最後までたたかい続けることができたこと、今後のたたかいに向けた展望を見出すことができたことを確認し、妥結を判断した。

22春闘は、21春闘の敗北総括が出発点だった。組合員のあきらめ感や閉塞感、仕方なさを蔓延させ、「労働組合にいても意味がない」「結局は会社の言いなりになるしかない」という“社内世論”を生み出し、職場に根付かせようとする経営姿勢に対する立ち向かい方が大きく問われた。私たちは、22春闘勝利に向けてたたかき積み上げ、中央本部には約14,000件の意見が寄せられ、3月17日のホームページアクセス数は22万件を超えた。また、定期昇給が完全実施され「安心」「満足」といった組合員の意見もあったことから、22春闘における総括議論を丁寧におこない、次なるたたかきに活かしていかなければならない。

組合員に貫かれた思いは、会社回答以降も「昇給係数4の実施は最低限のこと」「春闘だからこそ、ベアを最後まで求めるのは当然」「昨年の定昇カット分を求める」など、定期昇給の昇給係数4の実施だけで満足していたら春闘そのものが形骸化され、JR東日本で働く労働者の賃金が低額に抑えられてしまうのではないかという危機感である。今もなお、バス関東本部・バス東北本部の仲間は要求実現に向けて、組合員の声をもとに奮闘している。中央本部は、最後まで連帯してたたかうものである。

年明けから全国各地で創意工夫したたたかいは、組合員がコロナ禍に負けず多くの運動を担った。賃上げは労働組合でしか要求できないものであり、これまでのたたかきがあったからこそ、定期昇給・昇給係数4を実現することができた。昨年は、赤字とコロナ禍、世の中の情勢からベアを求めること自体も躊躇したが、22春闘では、職場においてベア要求の意義を堂々と議論することができたことは大きな前進である。その根拠は、21春闘の敗北を教訓にして、区切りをつけて再出発してきたからである。

今後のたたかきに向けて、課題も見えてきた。JR各社に見られる人事賃金制度で、JR東海は、10年間昇進しなければ翌年から定期昇給乗数4を実施しても400円しか昇給しない。さらにJR西日本では、定期昇給を実施しても等級によっては、5年目から昇給しない制度になっており、最近では、JR貨物が評価によって昇給する人事制度を導入した。会社回答（3月17日）以降、一部の職場で管理者が「昇給係数4で感謝して欲しい」「満額定昇」と社員に説明していたことがわかったが、65歳定年制が2025年から企業に義務付けられることなどを見据え、このような問題意識を23春闘に向けて議論を開始しなければならない。

最終的に要求は実現に至らなかったが、一人ひとりが意志して実践すればたたかきに向けた原動力になり、JR東労組の未来を切り拓いていくことができると実感した。

私たちはこれからもJR東日本グループで働く仲間の皆さんに対して、JR東労組への結集を呼びかけ、春闘の灯を消さないためにも、労働者であることの自覚をもって、JR総連に結集する全国の仲間と共に、「JR総連春闘」をたたかっていくものである。

2022年3月31日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会

「22春闘の到達点」を全組合員で確認しよう！
本部見解を読み合わせし、